

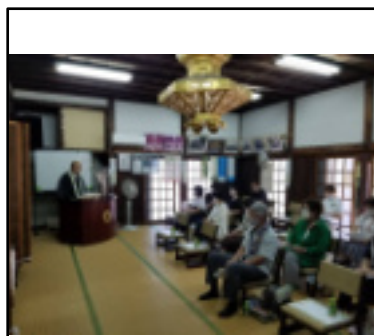
じゅこう

盂蘭盆会 厳修

約半年ぶりのご法要となりました。感染防止対策を

しっかりと整えて、無事に何事もなく盂蘭盆会の法要をおつとめさせていただけたこと、本当に嬉しく思います。

やはり、ご法座が開かれる、お聴聞のご縁があるということがお寺の存在意義であると感じたことでありました。



この度のご講師は奈良県吉野より花岡静人先生です。ご讃題は親鸞聖人のご消息(お手紙)より「まづ善信(親鸞聖人)が身には、臨終の善悪をば申さず、信心決定のひとは、疑なければ正定聚に住することにて候ふなり。さればこそ愚痴無智の人も、をはりもめでたく候へ。如来の御はからひにて往生するよし、ひとび

第17号
(通算357号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

今月のクイズ

・浄覚寺の開基仏とされている阿弥陀さまの絵像はいつ頃作成されたのでしょうか?

- ① 480年代
- ② 580年代
- ③ 680年代

・正解は次号にて。
ヒントはPにあります。



れるとい
ことはな
いのです。

また、表

現が難しいですが、お念仏を称えれば、亡くなったらお浄土へ生まれる、ということでもありません。信心が定まるということは浄土往生が「今」定まるということです。これを現生正定聚といいます。

阿弥陀さまの救いの有難いところは、極端に言えば、私がお浄土に生まれたいと思わなかったとしても、私のことをお浄土に迎え取ろうと今働いておられることです。どんな私であろうとも、すべてを包んでくださっているのです。そんな阿弥陀さまの願いを、お聴聞の中で、そのまま聞かせていただきましょう。

眞実信心の行人は、

攝取不捨のゆゑに

正定聚の位に住す。

このゆゑに

臨終まつことなし、

来迎たのむことなし。

信心の定まるとき

往生また定まるなり。

《末灯鈔》

御文章に聞く(第14回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思います。
「あさましき罪業にのみ」という部分を深めてまいりましょう。
「あさましい」とは現在使われている「いやしい」という意味ではなく、「おどろくべき」という意味であるということです。これは先月にお伝えしました。

狛すなどり章(一帖第三通)
かかるあさましき罪業にのみ・朝夕まどいぬるわれらごときのいたずらものを、たすけんと誓いします。・弥陀如来の本願にてもしますぞとふかく信じて、一心にふたごころなく・弥陀一仏の悲願にすがりて、たすけましますとおもうごころの・一念の信まことなれば、かならず如来の御たすけにあずかるものなり、

次の「罪業」という言葉も、ただ悪いことという単純な言葉ではなく、無自覚なものにその誤りを自覚させる言葉であるといわれます。
私たちはかけがえないのちをいただきながら、大切なものを見失い、経済的な損得だけで価値を見ることがおどろくほどに罪深いことと教えられます。
ただ、大事なところは「のみ」の二文字です。現代の資本主義の中では経済的なものを無意味とはいえませんが、社会のすべてが経済力を中心に動き、価値観の根本をなしているところに、現代日本のアンバランスの源があるのではないのでしょうか。
人が本当に拝まなければならないもの、大切に敬うべきものは何かということでありましょう。

仏教語辞典



アルカイック・スマイル

紀元前五世紀中頃の古代ギリシャの彫像に見られる口元だけが微笑んでいる表情。仏蔵にも取り入れられ、法隆寺の弥勒菩薩像や中宮寺の菩薩半跏像などにみることができる。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこー」をお届け致します。
約半年ぶりにご法要をおつとめすることができました。どれだけ対策を整えても不安を拭い去ることはできませんが、できる限りのことをこれからもしていきたいと思っています。
先日、子供たちを連れて『映画ドラえもん のび太の新恐竜』を観てきました。現在も上映中ですので細かい内容には触れませんが、卵の化石を拾ってきたのび太はタイムふろしきを使って双子の恐竜を生まねかせてしまい、タイムマシンで白亜紀に連れて行くというお話。そのうちの一匹は体も小さく飛ぶことができませんでした。無事に仲間の元へ送り届けたものの、自分たちとは姿が違ふという理由で受け入れてもらえず、傷つけられてしまいます。
少し悲しい気持ちになりました。現実では強い者が生き残り、淘汰されていくのかもしれない。けれど人間の世界ではどんな人も安心して生きていける、そんな社会であってほしいと思います。それが仏さまの願いです。(釋法道)

行事案内

日時・九月二十二日(祝) 十四時より
行事・秋季彼岸会
場所・長原 浄覚寺
法話・加藤真悟 先生(大阪)

(感染防止対策を整えておつとめさせていただきます)
(当日のお参りはお休みをさせていただきます)